

会報  
**峠**  
とうげ

河井継之助記念館  
友の会会報  
第23号  
2018.3

《編集・発行》  
河井継之助記念館  
新潟県長岡市長町1丁目1675-1  
〒940-0053  
Tel.0258-30-1525  
Fax.0258-30-1526  
頒布価：50円（送料別）

《編集人》  
荒木 法子 恩田 富太  
堀口 晴夫 水野 秀雄  
渡 邊 静江 友の会事務局

《構成・印刷》  
高速印刷株式会社

## 戊辰戦争一五〇年

### 長岡開府四〇〇年に向けて

長岡市長 磯田 達伸



今年（平成30年）は長岡開府四〇〇年、そして戊辰戦争一五〇年の節目を迎えます。今年（平成30年）のNHKの大河ドラマは西郷隆盛が取り上げられています。ここ

は、なぜ『峠』の河井継之助ではないのだ、と一言いたいところですが、それはさておき、西郷は明治維新の英雄であるとともに、新政府のあり方に異議を唱えた人物でもあります。

当時、熊本で自由民権運動の先頭に立っていた宮崎八郎（宮崎滔天の長兄）は「われわれ熊本の民権派は、ルソーの『民約論』を泣きながら読みつつ、剣をとって西郷軍に投じた」と語ったと言われています。そして西郷自身は、「今となりては、戊辰の義戦もひとえに私を営みたる（私利私欲を追求する）姿になり行き、天下に対し戦死者に対して面目なきぞとて、しきりに涙を催されける」（『西郷南洲遺訓』）という言葉を残しています。西郷こそ、小千谷談判で河井継之助と向き合ってほしかった

た、そうすればその後の長岡はもとより、日本の近代化はまったく違ったものになったのではないかと、という思いを禁じえません。

さて、河井継之助記念館の設立に当たっては、故・原信一氏を中心に下田会長をはじめとした市民委員の皆さんから、どのような展示にするか、どうすれば継之助の功績を分かりやすく伝えることができるかを熱心に議論していただいたことを昨日のこのように思い出します。すでに県内外から十三万人以上もの方々が来館いただきました。来館者アンケートでも「良くまとまっていてわかりやすい」「訪れて本当によかった」と好評をいただいております。開館に携わった一人として、本当にうれしく思います。

大きな時代の変化に直面している現在、新しい価値観と、困難な状況を打開する強い突破力が必要とされている中で、正直申し上げて、本当に正しい道は何かと迷います。そんな時に思い起こすのが、継之助の「公けなれば人怨まず、明らかになれば人欺かず」という言葉です。

継之助は外山脩造に「これからは商人の時代だ」と説いたことはよく知られていますが、脩造も生涯無私を貫いたと言われています。継之助の心や米百俵の精神が連綿と長岡に受け継がれているとしたら、長岡に

生きる人間としてこれに勝る喜びはありません。

今年（平成30年）は、「次の百年へ 新しい米百俵」をキャッチフレーズに、市民がひとつになって歴史を見つめ直し、長岡への愛着や誇りを高めるきっかけになるよう、数々の取り組みを進めます。そして、次の世代を担う人材を育てるとともに、長岡の未来に向けた投資を進めたいと思っています。

河井継之助記念館会員の皆様におかれましても、長岡の歴史と長岡が生んだ偉人を愛する皆様の情熱で、この開府四〇〇年の記念の年にご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



栄涼寺墓前にて（平成29年10月8日法要）

磯田達伸（いそだ たつお）  
プロフィール

昭和26年長岡市生まれ。  
昭和51年長岡市役所入庁、企画部長、都市整備部長、財務部長を歴任。  
平成24年長岡市副市長に就任、平成28年10月長岡市長に就任  
趣味は音楽鑑賞、スポーツ観戦